

令和3年度町政等に関するアンケートによる意見、提案、課題等
(令和4年度の進捗)

1 自治会離れの人が多く、自治会のあり方について考えることが多々あります。挨拶はするけど淋しい気持ちです。

回答：総務課

近年、全国的な傾向として、少子・高齢化、さらには単身世帯の増加など、社会構造の変化、ライフスタイルの多様化、そして地域に対する関心の希薄化などにより、自治会を取り巻く環境は大きく変化していると認識しています。

当町においても、多くの課題が顕在化するなど、自治会運営における課題は少なくありません。

町では、自治会運営にかかる費用や自治会が主催するイベントなどの経費を負担軽減するため、自治会振興補助金制度を設けています。また、自治会館の維持管理に要する費用を補助する自治会館等維持管理費補助金も交付しています。さらに、持続可能な自治会運営を支援するため、自治会運営についての課題や悩みについての相談なども行っています。

自治会は、地域的なつながりを持ち、お互いに助け合える近所の組織として、地域の生活環境の向上などを目的に、自主的に結成、運営される任意の地域コミュニティと考えています。

今後も、地域コミュニティの醸成や自治会の加入促進に向けた取組みに努めてまいりたいと考えています。

<令和4年度の進捗>

令和4年6月16日(木)に第1回自治会連合会長会議を開催し自治会運営について意見交換を行いました。また、令和5年1月には自治会連合会を対象に今後の自治会運営についてのアンケートを実施や広報紙で自治会への加入促進について周知をしました。

今後も自治会の皆様とご相談しながら自治会への支援を続けるとともに、広報紙などで自治会活動の紹介や加入促進についての周知を図ることで露出を増やし、自治会への加入を促進してまいりたいと考えています。

2 もう少し芸術や観光ができやすいといいと思う。

回答：教育文化振興課、環境経済課

(教育文化振興課)

松伏町の文化・芸術の推進につきましては、当町が誇る音楽ホール「田園ホール・エローラ」を拠点とした音楽によるまちづくりを推進しております。

令和3年度は、田園ホール・エローラが新型コロナウイルスワクチン集団接種会場として使用されたことや再度緊急事態措置が発令されたことから、当初予定していたコンサート等については全て中止となりました。

代替事業として、多世代交流学習館の多世代交流ホールを会場としたミニコンサート「ウィズ・コロナ・コンサート」を計5回実施しました。聴きにいられた方々から、多くの好評をいただきました。

また、町民への音楽鑑賞機会の提供、発表機会を失った音楽家への発表機会の提供のため、令和2年度から実施している音楽動画の配信事業は、令和3年度も継続して実施いたしました。

<令和4年度の進捗>

令和4年度についても、松伏町中央公民館(田園ホール・エローラ)は新型コロナウイルスワクチン集団接種会場として使用されていたことにより、当初予定していたコンサート等の中止や開催日の変更を行いました。なお、令和5年2月から3月にかけて3公演を開催し、鑑賞

いただいた多くの方々から好評をいただきました。

また、多世代交流学習館の多世代交流ホールを会場としたミニコンサート「ウィズ・コロナ・コンサート」を引き続き開催し、聴きに來られた方々から好評をいただきました。

今後も、当町が誇る音楽ホール「田園ホール・エローラ」を拠点とした音楽によるまちづくりを推進し、身近に文化・芸術が感じられるよう努めてまいります。

(環境経済課)

町の観光は、大落古利根川沿いの桜並木や県営まつぶし緑の丘公園をはじめ、イチゴの観光農園、江戸川の自転車道やエローラ等の様々な観光資源があり、町内外から観光に訪れていただいております。

また、令和元年度から「松伏ふるさとカレー」スタンプラリーを開催し、町内外から参加いただいております。

今後も、町内外から町に観光で訪れていただけるように努めてまいります。

<令和4年度の進捗>

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の中ではありましたが、4回目となる「松伏ふるさとカレースタンプラリー2022」を開催しました。開催初日には、スタンプラリーキックオフイベントとして、参加9店舗の商品を一堂に集めたカレー販売会を、まつぶし緑の丘公園内にて感染対策を講じながら実施し、賑わいを創出しました。

また、令和5年3月25日～4月2日の期間、古利根川桜まつりを4年ぶりに開催し、町内外から桜とともに春の訪れを愉しむ方が多数来場しました。

今後も、引き続き、町の観光に來る方が増えるように努めていきたいと考えております。

- 3 人と人とのつながりの大切さをうたい、広報でも自治会入会をすすめていることはありがたいが、もっと自治会等への具体的な支援策をうち出していきたい。このままでは、そう遠くない未来に自治会はなくなるだろう。子供会のように。

回答：総務課

現在、各自治会に対して、地域振興を図ることを目的とした自治会等振興補助金や、自治会館の維持管理に要する費用を補助する自治会館等維持管理費補助金を交付しています。

この自治会等振興補助金については、従来の運営費の補助金に加え、住民間交流によるコミュニティ活動の醸成を目的とした自治会活動魅力アップ事業を創設し、自治会等におけるレクリエーション事業や文化事業に対し補助金を交付しています。

さらなる自治会加入に対する具体的な支援策について、自治会連合会長会議での意見交換や近隣自治体の動向等も鑑みながら調査・研究してまいります。

<令和4年度の進捗>

令和4年6月16日(木)に第1回自治会連合会長会議を開催し自治会運営について意見交換を行いました。また、令和5年1月には自治会連合会を対象に今後の自治会運営についてのアンケートを実施や広報紙で自治会への加入促進について周知をしました。

今後も自治会の皆様とご相談しながら自治会への支援を続けるとともに、広報紙などで自治会活動の紹介や加入促進についての周知を図ることで露出を増やし、自治会への加入を促進してまいりたいと考えています。

4 限られた予算の中、大変かと思いますが、農業者としてはもう少し地域農業振興の為、農産物特産品の推進に力を入れて頂きたいをお願いします。※特産品により町のPRにも繋がるかと思えます。

回答：環境経済課

町では令和3年度に埼玉県と連携し、「晩成型トウモロコシ」の試験栽培を実施しました。この実証実験をもとに、町内農業団体を通じ、トウモロコシ栽培の普及に努めております。今後もトウモロコシ栽培を推進するとともに、町では「カレーのまちづくり」を推進していることから、こうした事業を通じ、ニーズのある農産物の生産推進をすることで、町の特産品に繋げていきたいと考えております。

<令和4年度の進捗>

町では、令和4年度も引き続き埼玉県と連携し、トウモロコシの減農薬化を図る「虫害防除実証実験」や降ひょう被害に係る「ひょう害生育調査」を実施するなど、栽培技術向上や栽培の普及に努めました。

なお、JAさかいつ松伏ふれあい直売所では、例年「とうもろこし祭り」を実施し、町内で生産されたトウモロコシの販売促進を行っております。

今後も農業者や各団体の協力のもと、技術向上と販売促進を継続的に実施することで、町の特産品に繋がるよう努めてまいります。

5 エローラの公園をもっときれいに。教育低下、中学の見直し。

回答：教育総務課

町では、学力向上に向け、「個々に応じた学び」及び「協働的な学び」を展開するための授業改善を図っております。そのために令和3年度からタブレット端末を有効活用した学習も進めております。令和4年度からは、町内小中学校において、ドリル学習をタブレットで実施し、子供たちが個々の力に合った問題に取り組み、個々の伸びを実感できる工夫も始めました。今後も松伏町の子供たちの学習意欲の向上を図り「できた、わかった、楽しい！」と感じられる授業が実施できるよう努めて参ります。

また、小学校教育6年間と中学校教育3年間の円滑な接続に向け、互いの授業を見合う場を設定したり、職員が意見交流できる場を充実させたりするなど、小中の連携を密にし、今後さらに義務教育9年間を通して発達段階に応じた系統のかつ計画的な教育活動を進めていくことで、心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成に努めてまいります。

<令和4年度の進捗>

町では、学力向上に向け、「個々に応じた学び」及び「協働的な学び」を展開するための授業改善を図ってまいりました。令和4年度からは、タブレット端末を有効活用した授業もより多く展開されました。様々な理由で学校に登校することができなかった子どもたちに対しても、授業を双方向で配信し、学習機会の保障もできるようになってきております。また、家庭学習においても、タブレット端末を活用したドリル学習や音読等が積極的に進められました。今後も個に応じた支援を大切にしながら、松伏町の子どもたちの学習意欲の向上を図り「できた、わかった、楽しい！」と感じられる授業が実施できるよう努めてまいります。

また、小中連携につきましても、お互いの授業を見合う場を多く設定し、多くの教職員が研修に取り組むことができました。夏の合同研修会では、教職員同士で意見交流をすることができ、小中連携の必要性を改めて認識することができました。今後も9年間を見据えた系統的な学びを通して心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成に努めてまいります。

6 町外に勤めている人は、帰りのバスがなく不便な為、松伏町から離れる人が増える。

回答：企画財政課

現在、茨城急行自動車（株）及び（株）ジャパントローズの各バス事業者のご協力をいただき、せんげん台駅、北越谷駅、南越谷駅、越谷レイクタウン駅、吉川駅及び野田市駅へと、松伏町から近隣の駅へのアクセスが向上しているところです。

バスの増便につきましては、バス事業者の経営上の判断も必要となることから、引き続き様々な機会を捉えて、各バス事業者へ要請してまいりたいと考えます。

<令和4年度の進捗>

松伏町には鉄道駅がないことから、地下鉄8号線の延伸について「地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会」を埼玉県、千葉県、茨城県の11市町で組織し、研究活動及び要望活動を行っております。東京都足立区からの申請があり、令和5年度からは12市区町で活動してまいります。

また、東埼玉道路での自動運転専用道路整備及びBRT（バス高速輸送システム）など新たな交通システムの導入と「パーク&ライド」の実現に向けた支援について、埼玉県並びに春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市及び吉川市と協働し国に要望を開始いたしました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、バスの利用者数が減少しており、現在のバス路線維持のため、国庫補助金を活用し「松伏町公共交通事業者事業継続補助金」を交付いたしました。

公共交通を担っていただいている事業者との懇話会なども行い、今後の町にとって必要な交通について研究し、交通政策を進めてまいります。

7 私たちの自治会が抱える問題点のワースト順位である。

- 1 自治会長の選出について（担う人がいない。）⇒有志メンバーで決定する。
- 2 自治会館の老朽化が進み問題。全体会議⇒有志メンバーで決める。
- 3 自治会脱会の件⇒早めに現状を把握し全体会議ですすめる。
- 4 不法駐車 of 解消⇒その都度対応する。
- 5 不用物の投棄について⇒その都度対応する。

なお、今回の調査を通じて、いろいろと勉強をさせていただきました。ありがとうございました。今後も更なる住みよい町づくりに支援させていただきます。

回答：総務課

自治会が抱える問題点及び、その問題点に対する対応方法についてご意見、ご提案をいただき、本当にありがとうございます。

町でも、少子・高齢化、さらには単身世帯の増加など、社会構造の変化、ライフスタイルの多様化、そして地域に対する関心の希薄化などにより、自治会を取り巻く環境は大きく変化していると認識しています。

今後については、ご意見、ご提案いただいたものを参考にしながら、地域コミュニティの醸成や自治会の加入促進に向けた取組みに努めてまいりたいと思います。

令和4年6月16日（木）に第1回自治会連合会長会議を開催し自治会運営について意見交換を行いました。また、令和5年1月には自治会連合会を対象に今後の自治会運営についてのアンケートを実施や広報紙で自治会への加入促進について周知をしました。

今後も自治会の皆様とご相談しながら自治会への支援を続けるとともに、広報紙などで自治会活動の紹介や加入促進についての周知を図ることで露出を増やし、自治会への加入を促進してまいりたいと考えています。

8 金杉・T氏側に、旧古川河川敷（通称8反8畝）の町有地があります。型がグローブのように使用しにくい形であり、そのままになっておると思います。これを中川が近いので、中川でボート等を行い、その搬倉庫等で活用してはどうか？事業費はBG財団の補助等を活用することで、町の出費は少なく済むのではないのでしょうか？

回答：教育文化振興課

有効活用を提案されている町有地は、中川沿いにある土地（現況：農地、地目：雑種地）のことと思われます。

ご提案されているように、中川で使用するボートを保管する艇庫等を建設するなど、土地の有効活用をする場合には、現在の土地利用の状況や所有権の問題など、様々な課題を解決していく必要があると考えております。

現在のところ、土地の有効活用に関する具体的な計画はございませんが、町の課題として認識しておりますので、今後、どのような活用方法が有効か調査・研究してまいります。

<令和4年度の進捗>

土地の有効活用をする場合には、現在の土地利用の状況や所有権の問題など、様々な課題を解決していく必要があります。すぐに解決できるような課題ではないので、今後も注視してまいります。

9 本町政アンケートは、町政に対する意見を聞く重要な機会だと思いますが、未だに紙面配布、手書き回答の状態なのでしょうか。確認できなかつただけでSNSやツイッターといったツールでも回答可能だったのででしょうか。回答者に高齢の方等がいることを考慮したとしても昨今のデジタル化を鑑みた改善が図られるべきだと思います。集計する職員の方も大変でしょうし、日常業務の見直しを行うことも重要です。

回答：総務課

現在、モニター員の状況を踏まえての回答方法とさせていただいております。今後、電子媒体での回答も検討してまいります。

<令和4年度の進捗>

令和4年度の町政等に関するアンケート調査につきましては、次の3つの回答方法をご用意いたしました。

①QRコードから回答フォームへの直接入力

②回答用電子データを送付して入力後にメールでの返送

③従来どおりの紙面での回答送付

これらの中から、回答方法を選択していただき、回答方法の多様化を図ったところです。結果的に③での回答が多かったのですが、今後、電子での回答が増えてくることが予想されますので、引き続き、電子での回答を実施していきたいと考えています。

10 松伏町のPRの強化に力を入れるべきだと思う。

回答：総務課

町では、平成29年12月に、松伏町シティプロモーション戦略を策定して、町のPRに務めているところです。現在、マップメール、ツイッター、インスタグラム、松伏町公式動画チャンネルによる配信を行い、フォロワー数やチャンネル登録者数が少しずつ伸びてきているところです。

今後も、各媒体を適切に活用し、フォロワー数等を伸ばし、松伏町の認知度の向上に努めてまいりたいと考えます。

<令和4年度の進捗>

若者を中心に多くのユーザーが利用するインスタグラムにおきまして、風景写真だけでなく、町内事業者のかき氷やアイスクリーム、季節限定のクッキーなどの町の魅力的なスイーツを若年層や子育て世代の方々に知ってもらい、町に来てもらうきっかけとなるような写真を投稿するようにしました。また、写真の中に特徴や宣伝などの文字を入れ込むとともに、ハッシュタグを数多く入れることで、フォローしていない方にもつながるようにしてフォロワー数の拡大を図りました。

また、公式Youtubeチャンネルによる動画配信では、視聴したいという興味を引き付け、一目で内容がわかるようなタイトル画像(サムネイル)の作成に努めるとともに、視聴者に最後まで見ていただけるような再生時間に編集するなど、よく視聴されている動画を参考にして制作しております。

今後も、さらに町の魅力を多く発信できるよう、各課と連携を図りながら、全庁的な体制で、郷土愛を醸成し人口流出の抑制に努めるとともに、交流人口や定住人口の増加につながるよう、町の認知度の向上を図ってまいります。

11 子供の医療で町外の小児科にかかった際、一度医療費を支払った後に町役場にて請求は、コロナ禍の為、考えた方がいいかと思いました。

回答：すこやか子育て課

令和4年10月より埼玉県内において、こども医療費の現物給付化が実施される予定です。現物給付化実施後は、埼玉県内であれば町外の医療機関でも受給資格証を提示していただくことで、無料で受診できるようになるため、役場窓口で医療費の請求を行う機会は徐々に減少すると考えております。

<令和4年度の進捗>

令和4年10月1日より、埼玉県内において、こども医療費の現物給付化が実施されました。従来の松伏町内だけではなく、埼玉県内の医療機関であれば、受給資格証を提示することで、原則、窓口での支払いがなくなります。県内での現物給付化の実施前は、一月での役場窓口での医療費の請求件数は、約1,600件でしたが、実施後は、約450件になり、約1/3になりました。以上のことから、これからもさらに減少していくものと考えられます。